

進路講話

「私のライフストーリー」「挑戦することの大切さ」

本校・訪問教育部：進路指導主事

2022年5月24日（火）、一般社団法人「[わをん](#)」のメンバーである小暮理佳さん、
「[日本自立生活センター（JCIL）](#)」のメンバーである大藪光俊さんを講師として迎え、進路講話をしていただきました！それぞれの学生生活と現在の活動についてお話していただいた後、未来の社会に向けてどのような活動をされているのかについても話していただきました。

○小暮理佳さん

1996年生まれ。SMA：脊髄性筋萎縮症。埼玉、広島を経て、幼少期から大阪で過ごす。地域の小・中・高等学校を経て、大学へ進学。大学を卒業したのち、障がい当事者の声を集めたハンドブック『[なにそれ！？介助付き就労](#)』の制作に携わった。他にも、手づくりアクセサリ制作などの活動も行っている。

○大藪光俊さん

1994年生まれ。SMA：脊髄性筋萎縮症。小学校から高校まで京都の支援学校で過ごす。大学へ進学し、[ダスキン障がい者リーダー育成海外研修派遣事業](#)の第36期個人研修生としてアメリカのシカゴへ留学する。現在、日本自立生活支援センター（JCIL：Japan Center for Independent Living）で障がい当事者スタッフとして活動している。

生徒たちは、今回の進路講話に向けて自身のプロフィールを作成し、関心を持っていることなどを事前に講師の二人に伝えました。進路講話では、在校生の質問や悩み事について、講師から心のこもったアドバイスやメッセージをいただき、大変学びのある時間を過ごすことができました。それでは、当日の様子をどうぞ。



当日は、新型コロナウイルス感染症対策の観点から、Zoom による進路講話となりました。生徒たちはそれぞれの HR 教室、教員は情報の教室と職員室から参加しました。講師のお二人には、事前に生徒たちのプロフィールを読んでいただき、お話していただく内容を丁寧に考えていただきました。

- ① 学生生活の間にどのような力をつけたいか
- ② 将来、どんな生活を送りたいか
- ③ どのような社会にしていきたいか

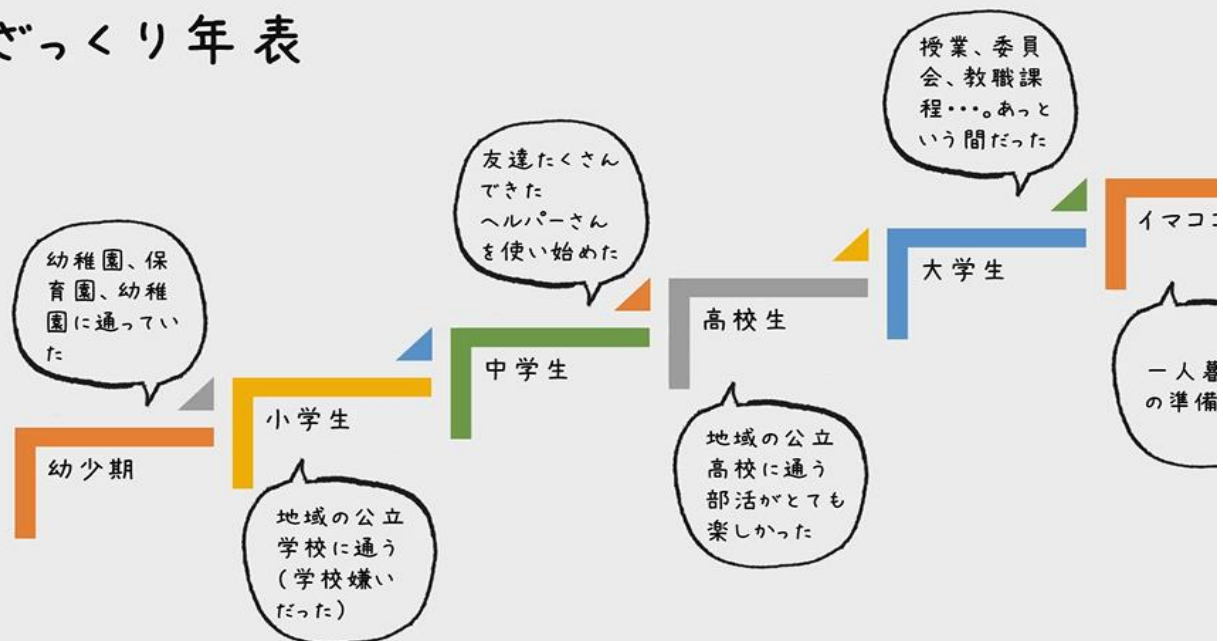
今回の進路講話を通して、生徒たちに考えてもらいたいテーマを3つにしぼって提示しました。さあ、どんな話が聞けるのか楽しみですね！！

わたしのライフストーリー

小暮理佳(こぐれりか)



ざっくり年表



まずは小暮理佳さんからのお話です。「**わたしのライフストーリー**」と題してお話をさせていただきました。アクセサリーのお仕事をされていることもあり、ご自身のイラストや、資料のデザインもすごく素敵ですね！

○小・中学生の頃のエピソード

自己紹介の後、小・中学校のエピソードを話してくれました。小学生の時には電動車いすを操作することへの学校の理解が得にくかったことや、中学生の時には体育の評価がつかなくて悔しかったことなど赤裸々に語っていただきました。

生徒たちからは「きっと辛かったことと思います…」という深い共感の声があがりました。

○高校生・大学生の頃のエピソード

介護タクシーでの移動の支援や、制度に基づいた介助員さんによる介助を受けながら高校生活をエンジョイした小暮さん。書道部の部長も務めました。

しかし、部活動や修学旅行などには介助がつかない等の制度上の課題も…。一方、当時の恩師が放課後の受験勉強に付き合ってくれたことに感謝しているという話もありました。

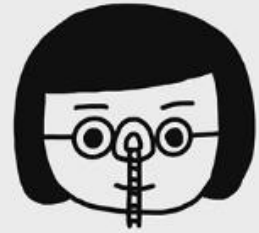
大学進学後はさらに色んなことに挑戦され、あっという間の4年間だったそうです。刀根山支援学校へ教育実習にも来てくれました！

どんどん人に頼って生きていこう！

「迷惑かな…」なんて思わなくていい！

やってみたいなと思ったことは、口に出して周りに伝えてみよう！

そして、どうしたらできるようになるかを
周りの人と一緒に考えていこう！



小暮さんは現在、手作りアクセサリーの制作をしたり、[DO-IT Japan](#) のインターンシップ生として活動したりするなど、多岐にわたる活躍をされています。その中でも一般社団法人「わをん」による「介助付き就労プロジェクト」のメンバーとしてハンドブック『**なにそれ！？介助付き就労**』の制作に精力的に携わりました。小暮さんが熱い想いでどのように取り組んできたかについては[こちら](#)をご覧ください。

生徒それぞれの悩みに親身に答えていただいたあと、小暮さんは「**迷惑かな…なんて思わなくていい。どんどん人に頼って生きていこう！**」「**周りの人をどんどん巻き込んで、一緒に壁にぶち当たって、一緒に壁を乗り越えていく**」「**一人で戦うよりみんなで戦う方が社会はより良くなる**」など、大変力強いメッセージを送ってくれました。障がいがある人だけでなく、**すべての人の背中を押してくれる大切な考え方**だと思います。

2022.5.24 刀根山支援学校交流

挑戦することの大切さ

日本自立生活センター(JCIL)
大藪 光俊

プロフィール

- ▶ ダスキン障害者リーダー育成海外研修派遣事業
第36期個人研修生
- ▶ 日本自立生活センター(JCIL: Japan Center for
Independent Living) 当事者スタッフ

休憩後、大藪光俊さんのお話が始まりました。「**挑戦することの大切さ**」というタイトルにあるように、大藪さんは様々なことに挑戦してきた方です。なんと留学経験もあるということで、どんなエピソードがあるのか楽しみです！

全国障害者スポーツ大会—おいでませ山口大会—



英語との出会い

- ▶ 中1から高3まで一人の英語担当の先生から英語を教わった



大学進学希望



アメリカ留学へ

地元である京都の支援学校で小・中・高校生活を送った大藪さんは、二つの大きな経験をされました。

一つ目は、「障がい者スポーツ」に出会ったことで、**運動の楽しさを経験**したことです。二つ目は、ある英語の先生に出会ったことで、**英語を学ぶ楽しさを経験**したことです。京都に観光に来られた外国人にインタビューをしながら実践的な英語力を培っていく中で、「**留学したい**」という想いが膨らんだそうです。

大学進学・一人暮らし

- ▶ 奈良県:天理大学国際学部外国語学科英米語専攻に進学
- ▶ 同時に、実家を離れ一人暮らし
 - 介助体制
 - 生活部分:重度訪問介護
 - 校内:学生ボランティア、友人、先輩後輩
- ▶ 最初は、色々戸惑いが.....
(特に同級生との距離感)



学生ボランティア募集

- ▶ 高校時代にボランティア募集の経験
- ▶ 募集方法
 - チラシ張り出し
 - 教授の協力
- ▶ 人づてにボランティアが続々と
- ▶ 累計30~40人の学生による支援



高校卒業後は挑戦の連続です。大学へ進学することで、実家を離れて一人暮らしをスタート。生活面では、**重度訪問介護制度を受けることができたものの、学校生活ではヘルパーの介助が受けられない**という現実が待っていました。

当初は同級生との距離感に悩みながらも、**学生ボランティアを募集する**という行動を起こします。その結果、30~40人の学生が支援をしてくれることになりました！遠慮している場合ではない環境に身を置くことで「**人に助けを求める力**」が養われていったと話していただきました。



ダスキン障害者リーダー育成海外研修派遣事業



第36期海外研修派遣

研修概要

▶ 研修への応募動機

周囲にたくさんの施設入所者

➡ どうすれば彼らも地域で暮らせるんだろう？



▶ 研修先: Access Living (アメリカ・シカゴ)

▶ 研修期間: 2017年4月27日～2017年9月8日 約4ヶ月間

▶ 研修テーマ:

アメリカにおける重度肢体不自由者の社会参加及び社会貢献について

—シカゴエリアにおける障害者の生き方の多様性を探る—

充実されたキャンパスライフを送っていた大藪さんでしたが、周りの友人の多くが留学を決めていく中、自分が留学に行けないでいることが大きな心残りとなっていました。それでも留学という夢を諦めきれなかった折、「[ダスキン障害者リーダー育成海外研修派遣事業](#)」に出会いました。

アメリカで障がいのある方がどのように社会に参加されているかを研修のテーマに掲げ、採用されました。ついに留学という夢が叶ったのです。それは同時に、新たな挑戦でもありました。

現地での生活

- ▶ 住居
 - 大学の寮
 - ホームステイ
 - ホステル
- ▶ 介助: 二人体制
 - 日本からの同行者
 - 現地のPA(Personal Assistant)
- ▶ 移動: 公共交通機関を使用



多様性の美しさ

- ▶ 障害は、障害と共に生きる人が誇ることのできる、人間の多様性の中のごく自然かつ美しい一部
- ▶ それぞれの違いをわかり合い、尊重し合い、違いを楽しみ合うという姿勢が大切



シカゴに到着した大藪さんは、日本からの同行者と現地の PA (Personal Assistant) の二人から介助を受けながら4カ月の留学生活を送りました。

印象的だったことは、ADAPT Action という障がい者運動に出会ったことです。「障がいのある立場だからこそできることがある」ということをデモで発信する姿に衝撃を受け、「**みんな違うことが当たり前。その違いをどんな風にみんなで見分けて、楽しんでいくかが大切**」という風に考えられるようになったそうです。

帰国後、JCILとの出会い

- ▶ 帰ってからの具体的な動きがノープランだったところ...
- ▶ 2017年10月24日 JCIL初訪問
- ▶ 2017年11月17日 JCILスキマ勉強会にて
アメリカ研修報告
→ JCメンバーに



ピアサポート



障害当事者相談

障害当事者による
自立生活前の買い物アドバイス



自立生活の先輩
訪問見学



帰国後、京都にある日本自立生活センター（JCIL）と出会い、職員として働くことになりました。「**ピア・サポート**」という障がいのある方が、障がいのある方の相談に乗ることをされたり、病院に長期間入院している方の地域移行支援をされたりしています。さらに、みんなが地域で暮らせる社会になることをめざしてシンポジウムを開いたりもされています。



大藪さんも生徒それぞれの悩みに親身に答えてくれました。「人生というのは不思議なもので、いろんな出会いがあります。みんなにもきっと良い出会いがあります」と生徒たちに話してくれました。

他にも「自治体によって、制度を使えるかどうかには差がある。交渉する力も必要です」とも話してくれました。

生徒たちは、最初に示した3つのポイントを軸に、進路講話の感想文を書きました。

【学生生活の間に力をつけたいこと】

「人にものを頼める力をつけたい」「後悔のないように自分のやりたいことをやりたい」

【将来、どんな生活を送りたいか】

「結婚したい。そのためにも自信をつけたい」「一人暮らしを目標に自立したい」

【どのような社会にしていきたいか】

「誰でも不自由なく暮らせる社会」「誰もが認められて自由に生きられる世の中」

小暮さん、大藪さんの話を真剣に受け止め、自身の将来について前向きに考えることが

できました。お忙しい中、講話をしていただき本当にありがとうございました！